



## こいぬ座 ~あなたなら何に見える?~

こいぬ座をつくる主な星は、1等星のプロキオンと3等星のゴメイサ。このたった2つの星です。星座図で見るとこいぬ座の境界内には他に目立った星はありません。この2つの星を結んだだけの「短い一本線」なんです。昔の人はここからどうやって、小犬の姿を想像したのでしょうか。不思議ですね。

こいぬ座のプロキオンは、オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウスとともに冬の大三角をついている星です。春の宵の空でまだ見つけることができます。

プロキオンにはギリシャ語で「犬の先がけ・犬の前に」という意味があります。全天で最も明るい、おおいぬ座のシリウスよりも前に、少しだけ早く地平線から昇ってくることから名づけられたといえます。ということは…シリウスの周りの星たちを結んで大きな犬の姿を初めにつくって、おおいぬ座としてから、昔の人は「さて、この2つの星で結んだ直線をどうしようか?う〜ん。」と悩んで、こいぬ座をつくったのかもしれませんが。なお、ゴメイサはアラビア語の「かすかなもの・涙ぐむもの」という意味が割り当てられています。みなさんなら、この2つの星を結んだ直線で、どのような星座をつくりませんか。私なら、おおいぬ座に向かって飛んでいくfrisbee座!にになってしまうかもしれません。

1等星のプロキオンは11.4光年の距離にある太陽に似た黄色がかった白い星で、大きさは太陽の約2倍、表面温度は6500度です。この星の周りを約41年周期で公転するお供の星、伴星がいます。主星プロキオンAと伴星プロキオンBは、お互いの重力で引き合い、共通の重心の周りを公転する連星です。伴星のプロキオンBはすでに水素の燃料を使い果たしてしまっただけの白色矮星です。主星プロキオンAは1千万年から数千万年以内には赤色巨星になると予想がされています。私たちの太陽も50億年後には中心の水素を使い切って赤色巨星に進化するとされています。

冬の星たちが宵の空に見られるのもわずか。冬春の星たちの共演お楽しみください。